

つながる力

《No. 28》



24.9.10~12 奄美大島を訪問、

奄美からの辺野古埋立て用土砂搬出反対を要請



24.9.10 大和村長に要請書手渡す



24.9.11 瀬戸内町長に要請書手渡す



24.9.12 奄美市で副市長に要請書手渡す



24.9.12 竜郷町長に要請書手渡す

《 目 次 》

- 9.10~12 奄美で、土砂搬出反対を訴える 大谷正穂 阿部悦子 2~3
- 9.10~12 奄美大島四市町村への要請書 4~5
- 訃報 うるま市島ぐるみ会議議長 宮城英和さんご逝去 5
- 奄美会議 8月28日付総理・防衛大臣あて要請書 6
- 奄美会議 8月29日付奄美大島島内四市町村あて申し入れ 7
- 辺野古への土砂搬送によるこれ以上の環境破壊は許されない 北上田毅 8~9
- 9月、奄美大島を訪問して「世界自然遺産の島」の軍事要塞化に衝撃 阿部悦子 10~11
- 沖縄県議会あて 奄美大島からの土砂調達による特定外来生物の移動を許さないための陳情 12
- 第1回緊急オンライン学習会—辺野古埋立てに奄美から土砂採取?問題点を明らかにする!— 立田卓也 13
- 7月11日 防衛・環境省交渉 毛利孝雄 14~15
- 大軍拡と基地強化にNO!西日本交流集会を呉で開催 新田秀樹 16~17
- 6月28日 安和桟橋で何が起きた? 原田みき子 18
- 沖縄からの便り22 浦島悦子 19
- いんぷおめいしょん 各地から・土砂全協オンライン学習会の案内 20

写真提供 北上田毅 阿部悦子 立田卓也 松本宣崇 毛利孝雄

9.10～12 奄美で、土砂搬出反対を訴える

辺野古土砂全協共同代表 阿部悦子 大谷正穂

台風接近の影響で空模様の不安定ななか、奄美島内の1市2町1村の首長らと面談し、奄美大島からの辺野古土砂搬出反対の「要請書」を手渡すとともに説明してきました。また利用されると思われる採石場や積出し港を見てきました。北上田、阿部、大谷の土砂全協一行に「自然と文化を守る奄美会議」の城村さんが車を出してくださり、最終日は奄美ブロック護憲平和フォーラムの関代表が終日同行してくださいました。

12日の午後は鹿児島県護憲平和フォーラムの磨島さんの手配で、議会開催中の鹿児島県庁を訪れ、塩田県知事あての「要請書」を担当職員に託しました。鹿児島、奄美の皆さんにはお世話になりました。

9月10～12日三日間の行動は以下の通りです。

- ◆9月10日（火）
大和村役場で村長に要請、大和村内の採石場へ
- ◆9月11日（水） 瀬戸内町内の採石場調査、瀬戸内町役場で町長に要請
奄美市内戸玉の採石場を調査
記者会見（大島支庁・記者クラブで奄美・鹿児島・全国紙の新聞、地元テレビ（NHKも）、共同通信が参加）
北上田さんによる学習会（40人以上参加し盛況）



- ◆9月12日（木） 奄美市役所（議会中で副市長に要請）、龍郷町役場で町長、副町長に要請
鹿児島市で、鹿児島県庁を訪れ県知事あての要請書提出（担当職員に託す）

各首長とも「現在までのところ防衛省から接触はない」と言われていました。首長として「条例などに反しない」の立場も確認できました。龍郷町の港湾は「龍郷町の管理港湾」で他とは管理者が異なることが分かりました。幾つかの採石場では「がけ崩れ」を起こして土砂を回収しているような場所も見受けられました。

奄美で城村さんから頂いた資料（別掲、首相・防衛大臣あて申し入れ書、島内四市町村あて申し入れ書）を見れば、行政交渉、抗議行動、情宣活動と精力的に取り組まれています。

（「海峡の町」の大谷正穂）

奄美現地では辺野古土砂全協の仲間「自然と文化を守る奄美会議」など地元の団体が、行政交渉や情宣、調査活動などを積み重ねられておられて頭が下がりました。

大谷さんには、最終日の12日午後、お疲れのところ鹿児島県庁に要請行動をしていただき有難かったです。その節は磨島さんにもお世話になりました。

私たちは10日から12日まで、4市町村で防衛省の動きを聞きましたが、「特段ない」と応えておられたにも関わらず、その数日後に調査が入ったと聞き、余りにも急で強引な「調査」だと断じざるを得ません。城村さんには終始お世話になりました。

北上田さんが「今、土砂全協の動きどころ」と位置づけてくださり、各市町村長さんらに対して説得力のある丁寧な説明をしていただき、感謝いたしました。（阿部悦子）（24.9.13）



2021年7月10日、お亡くなりになった元共同代表大津幸男さんの墓前に、お花を供えてきました。

米軍普天間飛行場（沖縄県宮野湾市）の名護市辺野古への移設を巡り、埋め立て資材搬出地などの9都県14の市民団体でつくる「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」（阿部悦子、大谷正穂共同代表）は11日、奄美大島入りし、採石候補地とされる島内4市町村の採石場や港湾を視察。奄美市住用町では住民との意見交換も行った。

奄美からの搬出に反対

奄美大島

辺野古土砂全協が訴え

2024.9.12 奄美新聞

10日は伊集院幼大和村長、11日には鎌田愛人瀬戸内町長と面会。▽奄美大島からの埋め立て土砂搬送に

米市名瀬の県大島支庁記者クラブで記者会見を開いた。辺野古埋め立て用の土砂確保に向け、防衛省が奄美大島で調査を行う計画に対し「奄美大島からの土砂搬出による特定外来生物の移動を許さない」とする意思を表明。住民にも「採石場近辺に外来種が生息していないか注視してほしい」と訴えた。



奄美大島からの土砂搬出に反対を表明した辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の代表ら＝11日、奄美市名瀬

▽防衛省による調査箇所、

日程が分かれば速やかに公表すること▽防衛省へ地域住民へ説明の場を持ち、意見を聞くよう求めることなどを求める要請書を手渡した。伊集院村長からは新たな採石場の計画もあったが阻止してきており、今後でも許可するつもりはない、鎌田町長からは「辺野古移設には賛成の立場」との発言があったと明かした。



辺野古土砂全協は9月10～12日、阿部・大谷両共同代表と北上田顧問が奄美大島を訪れ、採石予定地とされる大和村（要請日9月19日）・龍郷町・瀬戸内町（ともに同11日）・奄美市（同12日）の首長に、以下の要請書を直接手渡しするとともに、奄美大島からの土砂調達による特定外来生物の移動を許さないための要請を行ないました。

また、奄美からの帰途、鹿児島県知事に対しても9月12日、同趣旨の要請書を提出しました。

2024年9月12日

鹿児島県奄美市長 安田荘平様

辺野古新基地建設事業における、 奄美大島からの土砂調達による特定外来生物の移動を許さないための要請

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

共同代表 阿部悦子（環瀬戸内海会議）

大谷正穂（辺野古に土砂を送らせない！山口の声）

（役員名省略）

私ども「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」（以下、「土砂全協」）は2015年、「どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」を合言葉に、西日本各地から辺野古新基地建設の埋立用土砂を調達する計画に反対するために、採取予定地の住民・市民団体によって発足した全国組織です。特に、外来生物の沖縄島への持込等に係る生物多様性の問題等を中心課題として活動を続けてきました。

鹿児島県は8月21日、政府が辺野古新基地建設に使用する埋立土砂確保のため、奄美大島で早ければ9月にも現地調査を実施すると発表しました。すでに防衛省職員が、8月19日～20日、鹿児島県と奄美大島の市町村を訪問し、調査計画を説明したそうです。奄美市にも防衛局職員が来て、市内の2ヶ所の採石場と土砂搬出港で特定外来生物の調査を行うと報道されました。

ご承知のように、沖縄県には特定外来生物の侵入を阻止するために、「公有水面埋立事業における埋立て用材に係る外来生物の侵入防止に関する条例（以下、「土砂条例」）が制定されています。2016年当時、那覇空港滑走路増設埋立事業では、奄美大島からの石材（12.5万m³）が搬送され、この土砂条例が初めて適用されました（その際には、申請書では「特定外来生物は確認されていない」とされていましたが、条例に基づき沖縄県が立入調査をしたところ、3ヶ所の採石場と3ヶ所の搬出港の全てで特定外来生物（ハイイロゴケグモ、オオキンケイギク）が確認され、沖縄県は石材の洗浄等の防除対策を指示した経過があります）。

また、鹿児島県の「指定外来動植物による鹿児島県の生態系に係る被害の防止に関する条例」でも、「指定外来動植物により生態系に係る著しい被害が生じるおそれがある場合、---国、市町村及び県民等と連携し、当該指定外来動植物の防除その他必要な措置を講ずるものとする」（第13条）と定められています。市町村としての対応も求められているのです。

世界自然遺産としての奄美大島の生態系を守り、同時に、辺野古大浦湾の環境破壊を許さないために、下記のとおり要請します。

記

1. 辺野古新基地建設事業については、2014年以降、翁長前知事、玉城知事が反対を表明し、2019年の県民投票でも7割を超える県民が反対していることが明確となった。今も、連日、キャンプシュワブのゲート前や大浦湾の海上で、県民らが必死の抗議行動を続けている。

奄美大島から辺野古・埋立土砂を搬送することは、沖縄県民の抗議の声を無視して戦争のための軍事基地建設に協力するものであり、認められない。市長として、反対の意思を表明すること。

2. 防衛省による奄美市での調査箇所（採石場、搬出港）、調査日程が分れば速やかに公表すること。

また、防衛省の調査終了後、報告書等の提出を求め、市長としてその内容を検討し、公表すること。

3. 防衛省が奄美市の採石場の土砂を辺野古埋立に使用すると決める前に、採石場・搬出港周辺住民への説明の場を持つよう求めること。

4. 鹿児島県の「指定外来動植物による鹿児島島の生態系に係る被害の防止に関する条例」に基づく「外来種被害予防3原則」では、「既に野外にいる外来種を他地域に拡げない」と強調している。この立場から、沖縄県が土砂条令に基づき奄美市の採石場や搬出港に立入調査を実施する場合、奄美市も沖縄県の調査に協力・連携すること。

5. 今回、代執行で国が沖縄県に代わって承認した辺野古・設計変更申請書では、奄美大島からは、1,190万 m^3 もの土砂調達が可能とされている。これは、大型ダンプトラック約250万台もの膨大な量である。奄美大島では現在でも、奄美市住用町をはじめ、採石場周辺の粉じん・騒音や赤土流出・海の汚濁等の被害が広がっている。辺野古への埋立土砂搬送が始まれば、さらに深刻な事態となる。

奄美市として、これ以上の採石行為による環境破壊を許さないための対策を講じること。

以上

訃 報

本年5月25～27日、辺野古土砂全協第11回総会の沖縄県うるま市開催にご協力いただいた、宮城秀和さん（うるま市島ぐるみ会議事務局長）が9月27日、病氣療養中のところお亡くなりになりました。辺野古土砂全協では、以下の弔電を墓前に届けさせていただきました。

宮城英和さま

突然の訃報に接して言葉もありません。長く沖縄の平和運動の中心を担われ、まごころと力強くも美しいその歌声で多くの人を勇気づけて来られました。私は一度お尋ねしたことがありました。「うるま市のみなさんのご活躍は素晴らしいのですが、事務局の宮城さんは大変でしょう」と。その時に宮城さんから返ってきたのは、「私は仲間がいとおいしいのです」という一言でした。忘れることが出来ません。

今年5月うるま市での土砂全協の総会ではお目にかかることは叶いませんでしたが、それまでの過程で沢山のお心のこもったお働きもいただきました。ほんとうに、有難うございました。私たち土砂全協も、宮城さんのお姿を胸に、辺野古に土砂を送らせない運動にこれからも邁進していきたいと思っております。ご冥福をお祈りいたします。

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会共同代表 阿部悦子 大谷正穂

2024年8月28日

内閣総理大臣 岸田 文雄 様
防衛大臣 木原 稔 様

奄美ブロック護憲平和フォーラム・代表 関 誠之
自然と文化を守る奄美会議・代表 藺 博明

辺野古・米軍新基地づくりのために、奄美大島から土砂を搬出しないこと

奄美大島・徳之島が世界自然遺産登録を果し、奄美群島における生物多様性の環境が世界的評価を受けました。群島民はそのすばらしい自然の恩恵を受けることに感謝を抱いています。また、各自自治体においては、島民の自然保護精神の涵養に努めているところです。

さて、沖縄防衛局が、辺野古米軍新基地づくり埋立て用、石材の調達のために、奄美大島の採石場を現地調査する計画を説明するために来島し、当該自治体長と面談されたとの報道がありました。

ところで、政府が米軍普天間飛行場の代替え施設として、辺野古沖を埋め立てて新基地をつくる提案をした当時、沖縄県民は、「これ以上の基地負担は御免」と反対の声を上げました。その後2010年の民主党政権時には、沖縄県外・徳之島案が浮上りました。その時、奄美群島では官民一致で『米軍基地・移設反対』で、火だるまになって移設阻止に立ち上がりました。こういう経緯のある米軍新基地づくりですので、埋め立て工事の中止を求めます。

先の国による侵略戦争の敗北の結果、沖縄と奄美は米軍の占領下にありました。日本復帰後も在日米軍基地が集中する沖縄は、米軍に強制収容された先祖伝来の土地返還を求め続けています。もちろん沖縄県民は、「辺野古の新基地づくり」には反対です。

「県民投票」、幾度もの「国政選挙」で「辺野古新基地反対」の民意が示されているにも関わらず、政府の植民地的な圧政に、もがいています。

沖縄県民と同胞である奄美群島民は、沖縄の現状を救うべき手を差し伸べる使命があります。徳之島に造る基地はNOで、辺野古への基地建設の協力はYESと言えますか。「辺野古埋立て用の土砂の運び出し」に反対を唱えます。

今回、奄美の土砂投げ入れを計画している大浦湾地区の海底は、防衛局も建設当初からマヨネーズ状軟弱地盤と承知の上で工事を進めています。7万本の杭を打って軍用機の滑走路を造るという、膨大な税金投入を見込むゼネコンありきの工事です。12年先の完成予定後も地盤沈下が懸念されています。世界自然遺産の島・奄美大地の土砂は使わないで下さい。

アメリカ（米軍）の東アジアにおける覇権を堅持させるために、日本政府が「台湾有事」を喧伝して、南西諸島に自衛隊基地を配備し、ミサイル部隊までも導入して軍事要塞化をすすめています。この地域での紛争勃発の怖れを高める「辺野古新基地」への協力はできません。沖縄県民と同じように、「ヌチド・タカラ（命ど宝）」です。命を脅かす戦争のための軍事基地づくりに奄美の土砂を一粒たりとも使わないで下さい。

記

奄美からの土砂搬出計画をやめ、米軍新基地建設を早急に断念するよう求めます。

辺野古土砂全協の加盟団体、自然と文化を守る奄美会議（奄美会議）と奄美ブロック護憲平和フォーラムは8月29日、地元の団体の立場から奄美大島島内4市町村（奄美市・瀬戸内町・龍郷町・大和村）に、以下のような要請を行ないました。同時に、政府に対しても同じ趣旨で申し入れを行っています。前6頁の申し入れ書を参照ください。

2024年8月29日

瀬戸内町長 鎌田 愛人 様

奄美ブロック護憲平和フォーラム・代表 関 誠之
自然と文化を守る奄美会議・代表 藺 博明

瀬戸内町から辺野古米軍新基地づくりに要する土砂搬出をさせないこと

奄美大島・徳之島が世界自然遺産登録を果し、奄美群島における生物多様性の環境が世界的評価を受けました。群島民はそのすばらしい自然の恩恵を受けることに感謝を抱いています。また、各自治体においても、島民の自然保護精神の涵養に努めていることに感謝申し上げます。

さて、沖縄防衛局が、辺野古米軍新基地づくり埋立て用、石材の調達のために、奄美大島の採石場を現地調査する計画を説明するために来島し、当該自治体長と面談されたとの報道がありました。

ところで、米軍普天間飛行場の代替施設として、辺野古沖を埋め立てて新基地をつくる案が日本政府から出された時、沖縄県民は、「これ以上の基地負担は御免」と反対の声を上げました。その後2010年の民主党政権時には、沖縄県外・徳之島案が浮上しました。その当時、奄美群島民は「米軍基地・移設反対」で、火だるまになって移設阻止に立ち上がりました。こういう経緯のある米軍新基地づくりですので、埋め立て工事の中止を求めます。

戦後、米軍の占領下にあった同胞、沖縄と奄美。沖縄では「県民投票」、幾度もの「国政選挙」で「辺野古新基地反対」の民意が示されているにも関わらず、日本政府の植民地的な圧政に、もがいている現状に、救いの手を差し伸べるのが奄美群島民の使命ではありませんか。徳之島に造る基地はNOで、辺野古への基地建設の協力はYESと言えますか。「辺野古埋立て用の土砂の運び出し」に反対の意を唱えて下さい。

今回、奄美の土砂投げ入れを計画している大浦湾地区の海底は、建設当初からマヨネーズ状軟弱地盤と判明していましたが、7万1千本の杭を打って滑走路を造るという膨大な税金投入が見込まれるゼネコンありきの工事です。12年先の完成予定後も地盤沈下が懸念されています。世界自然遺産の島・奄美大地の土砂は使わせないでください。

アメリカ（米軍）の東アジアにおける覇権を堅持させるため、また日本政府が「台湾有事」を想定して、南西諸島に自衛隊基地を配備し、ミサイル部隊までも導入して軍事要塞化をすすめている現状において、この地域の紛争勃発の可能性を高める「辺野古新基地」への協力は要りません。沖縄県民と同じように、「ヌチド・タカラ（命ど宝）」です。命を脅かす戦争のための軍事基地づくりに奄美の土砂を一粒たりとも使わせないで下さい。

記

瀬戸内町を含む、奄美群島からの土砂搬出をさせないよう国に求めること

20232030



20232030

24.10

YouTube



<https://www.youtube.com/watch?v=Z6P8wf2jELA>

<https://www.youtube.com/watch?v=656609c>

2023

10,000

3,000

- -

大軍拡と基地強化に NO！ 西日本交流集会を呉で開催

ピースリンク広島・呉・岩国 世話人 新田秀樹

9月21日、22日、呉市で「知り・つながり・止める一大軍拡と基地強化に NO！ 西日本連帯交流集会」をピースリンク、広島と沖縄をむすぶドゥシグラーとノーモア沖縄戦 命どう宝の会が共催して開催した。基地強化の現地など西日本各地をはじめ地元から二日間でのべ約150人が参加した。



この流れは琉球弧の島々に自衛隊駐屯地、ミサイル部隊や弾薬庫の建設が進む中、沖縄が戦場にされるとの危機感から2021年に「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」が発足し、集会を重ねてきた。その中の発言で事務局長の新垣邦雄さんは「沖縄を再び犠牲にするな」の声に日本全体で軍拡が進む中「沖縄だけの問題ではないのでは」と違和感を覚えたという。呉集会の前には今年4月の愛媛に続き、8月には沖縄で西日本をつなぐ交流集会がもたれた。

急速に進む日本の軍拡、とりわけ呉では3月に防衛省は「多機能な複合防衛拠点」建設のため、操業を停止した日鉄呉跡地130haを取得する意向を発表している。現在でも自衛隊艦艇数で最大の海上自衛隊呉基地を抱えているが、基地面積は約2.5倍になり戦争拠点になろうとしている。それに対して、呉市民は「日鉄呉跡地問題を考える会」を4月に発足させ、共同代表でもあるピースリンク呉世話人の西岡由紀夫さんが開会挨拶を兼ね、現状を報告した。



ノーモア沖縄戦命どう宝の会共同代表の具志堅隆松さんは沖縄戦の遺骨収集を続ける中、「これ以上遺骨を生み出してはいけない」と基調ともいえる熱い思いを語った。改めて戦争を知る世代が減り、戦争のリアルが失われる中、本当に重い話だった。

そして、全国の基地を歩き映像を撮りためている横浜の木元茂夫さんがコンパクトにまとめた映像で全国の動きを紹介した。木元さんは地元の米陸軍横浜ノースドックの動きや横須賀の日米艦船の動きの監視も続けている。

各地からの報告は一日目にオスプレイ配備地とにもへり基地として工事が進む佐賀から阻止行動を続ける豊島耕一さん、住宅地に進む弾薬庫建設が進む大分から池田年宏さん、ミサイル連隊の司令部ができる湯布院から鯨津憲治さんが報告。二日目にオンラインで自衛隊訓練場を阻止したうるまから照屋寛之さん、軍事基地がなかった八重山諸島に次々に建設、拡大される現状を石垣島から藤井幸子さんが報告、奈良から駆け付けた八木建彦さんは学園都市の真ん中に増設されようとしている京都祝園弾薬庫問題、鹿児島から岩崎わかさんはさつま町で自衛隊を逆に誘致する現状を報告した。

さらに、軍拡にあわせて物資・兵員輸送のために港湾・空港の軍事利用が狙われている。28の空港・港湾が「特定利用空港・港湾」に指定され、さらに

6月28日、安和棧橋で何が起きた！？

本部町島ぐるみ会議 原田みき子

辺野古の闘いは25年を越えた。これまで、安和事件の被害者Aさんの手作りパンを食べなかった人はいないだろう。工事が進むにつれ、闘いの現場は塩川の港や安和棧橋にも広がったが、Aさんのパンは全ての現場に届けられた。パンばかりではない。手縫いのブローチもみんなもらった。手許に残っているブローチは、「改憲防止」帽子、「安倍打倒」太鼓、「高江に来てね」パイナップルなど、機知に富んだ物ばかり、多くの人がジャケットや帽子にたくさん飾った。彼女はいつもたくさんプレゼントを持って現れるので、いつからか「パンダクロスさん」と呼ばれるようになった。

6月28日、彼女は仲間3人と安和棧橋の出口で活動していた。ダンプが2台続けて出ようとするので、手を上げて「だめでしょ！」と阻止しようとした。そこへダンプが突っ込んできた。7m以上引きずられダンプは止まった。その時、一緒にいた警備員のBさんは、ヘルメットが飛び、運ばれた病院で死亡が確認された。Aさんは、全身の血の3分の2が内出血で失われ危機的状況だったが、一命はとり止めた。Aさんは小柄で痩せている。「2度もタイヤが身体の上を通過していった」と証言している。直後から意識が完全にあったというから、どんなに痛かったろう。苦しかったろう。会うたびにいつもハグする仲だったので、涙が止まらない。

私は数人の仲間と共に、抗議集会を7回連続して開いた。産経新聞や週刊新潮などが「Aさんが車道に飛び出した」と報じ、さも責任が彼女にあるかのような印象づけが行われ、ネットでも呼応したニュースが流れ始めていた。「真相究明」と「工事中断」を掲げ、安和の現場で集会を重ねるうち、目撃証言が次々に集まった。Aさんがいたのは歩道であり、彼女の飛び出しは無かったこと、ゼネコンが大成建設から大林組に代わって、作業の効率化が図られるようになったこと、警備会社アルソックの警備体制

が、ダンプ優先で歩行者に配慮がなかったこと、ドライバーや会社がAさんに全く謝罪をしてなかったこと（ドライバーは逮捕されていない）、警察が一度もAさんから事情聴取をしていないこと、事故の直後に現場が保存されず洗浄されたこと、警察の現場検証が、事故後1週間も経ってあったことなど、ありえない証言が続いた。見えてきたのは、防衛施設局、大林組、アルソックを中心とする辺野古の工事に関わる一連のグループが、Aさんに責任を押しつけて罪を免れようとする「たくらみ」だった。私たちは、集会のたびに、「被害者を加害者にするな！」と叫んだ。

Aさんは、お姉さんを通して病院からメッセージをくれる。不死鳥の如く蘇って現場に戻ること、危険だからみんな赤い布をつけて欲しいなどなど。早速赤いリボンを首に巻いて安和の現場に立ったら、防衛局の職員が「それは何ですか？」と訊いてきた。「この赤は、被害者が流した血の色よ」と答えた。

(24.9.24)

2024年(令和6年) 9月23日月曜日 沖縄

県に責任転嫁 運搬再開

名護市辺野古の新基地建設を巡る交通死傷事故の発生から55日後の8月22日、沖縄防衛局は中断していた安和棧橋での土砂運搬を再開した。

防衛局の対応

名護市辺野古の新基地建設を巡る交通死傷事故の発生から55日後の8月22日、沖縄防衛局は中断していた安和棧橋での土砂運搬を再開した。

出入り口にはサイン付きのランプも設置した。「防衛局としてできる対策を最大限取ったので再開した」

同日、県庁を訪れた沖縄防衛局の三沢大副団長は県にそう伝えた。

事故が起きたダンプカーの出入り口は県が管理する国道4号の号に接する。県は道路の補修も維持管理をする立場だ。そのため7月

9日、防衛局に再発防止を求める行政指導をした。防衛局からはその後1カ月以上音沙汰がなく、8月15日になって、逆に県に安全対策を求める要請をした。

名護市安和棧橋でネットフェンスを用いて市民の歩行を遮る警備員ら＝8月24日、名護市

識者「警備の検証必要」

沖縄タイムス 9月23日

沖縄からの便り

《連載 No.22》
いちやりば
ちよーでー

代執行 → 大浦湾の「軟弱地盤改良工事」強行は、 **国家犯罪**

ヘリ基地いらぬ二見以北十区の会 浦島悦子



私たち辺野古・大浦湾沿岸
住民が原告となっている 3
つの訴訟のうち 2 番目の「知
事の不承認を支持する住民
の訴訟」の第 9 回口頭弁論が

9 月 10 日、那覇地裁で行われた。

本訴訟の第 3 回口頭弁論（2023 年 3 月 23 日。
福渡裕貴裁判長）における私の意見陳述書に前代
未聞の文言の書き換えが命じられたことはこの連
載 No.18 で報告したが、当時は法廷での陳述を優先
して書き換えたものの納得していないこと、昨年
末の代執行（設計変更不承認を貫く県に替わって
国が承認）により大浦湾の工事が着工され強行さ
れ続けている現状の中で再度、今年 4 月に交替し
た片瀬亮裁判長に訴えたいと思い、私が本訴訟 2
回目の意見陳述を行った。以下は陳述書の一部で
ある。

……太古の昔から、人々の命と暮らしを支え、
文化を生み出してきた大切な自然が日々壊され、
豊穡の海が埋め殺されていくのを毎日見せつけら
れるのは、我が身を削られるような思いです。

人間活動の活発化によって急速に劣化する地球
環境への危機感、このまま続ければ人類の生存が
危うくなるという危機感を世界の国々が共有し、
1992 年に生物多様性条約が結ばれました。日本政
府も批准しており、……率先して生物多様性を守
る義務を負っている国が、それと全く逆に、「奇跡
の海」と言われるほどの生物多様性を残す辺野古・
大浦湾を、国民の血税を使って破壊し続けている
ことを、私は「国家犯罪」だと書きました。……

裁判所に書き換えを命じられたのは、これら「罪」
という文字が入った 4 か所でした。……私は、行

政権力をカサに着た「犯罪」を、行政権力から独
立した司法に裁いて欲しいという願いを陳述書に
込めたつもりでした。……

辺野古新基地建設を巡るその後の経過を見ると、
代執行までして大浦湾の軟弱地盤に手を付け始め
た国の工事強行は、どう考えても、やはり「国家
犯罪」と言う以外に表現が見当たりません。

大浦湾の軟弱地盤と呼ばれている海底は、柔ら
かい砂泥に抱かれて無数の生き物たちが生息して
いる命の宝庫であり、大浦湾の生物多様性の底辺
を支える最も大切な場所です。ここを埋め固める
ことは、命の大殺戮であるだけでなく、大浦湾全
体の命の循環を壊滅的に破壊します。また、海水
の異常高温が続き、大浦湾でもサンゴの白化が広
範囲に進む中で、最もやってはいけないサンゴの
移植を強行したのも言語道断です。

軍事基地は戦争のためのものです。戦争がいか
に無益・無残なものかは、現在も世界中で起きて
いる戦争が証明しています。そんなものを造るた
めに、未来の幾世代にも亘って命を育み、恵み
を与えてくれる海や森、自然を壊すことを、「未来へ
の犯罪」だと言わずに何というのでしょうか。

裁判官におかれましては、人としての原点に立
ち、今を生きる人間だけでなく、未来世代や、そ
の命を支える自然環境にとっての正義を示してく
ださいよう、心よりお願い申し上げます。

他の 2 つの訴訟は、埋立承認撤回を巡る訴訟（高
裁が 4 人の原告適格が認めるも国が上告）は最高
裁で審査中、代執行の取消を求める訴訟（今年 2
月提訴）は、那覇地裁で係争中（9 月 24 日及び 10
月 9 日に第 2 回口頭弁論）である。（24. 9. 23）



インフォメーション



◀ 各地からのご案内 ▶

★ 10月13日(日)

講演会「あきらめない！
辺野古新基地を止めるためにできること」

13:30～ 名古屋市教育館3F
第4・5研修室(東区泉1丁目1-4)
講師：北上田毅さん(沖縄市民平和連絡会)
参加費：800円
主催：あいち沖縄会議

★ 10月14日(月)

辺野古のケーソンをつくらせない。
三重県民集会

14:00～ アスト津ホール4F
講演「辺野古新基地建設の現状と課題」
講師：北上田毅さん(沖縄市民平和連絡会)
参加費：800円(前売 当日1000円)
主催：辺野古のケーソンをつくらせない
三重県民の会 (柴田 090-6807-1089)

☆☆ 辺野古土砂全協第二回オンライン学習会のご案内 ☆☆

開催日時：11月16日(土) 18:30～ 参加費・・・1000円

テーマ：急速に軍事要塞化する奄美大島～ 西日本に拡大する戦争準備態勢 ～

報告・・・奄美大島から 城村典文さん(自然と文化を守る奄美会議)
学習会・・・沖縄から西日本に拡大する軍事態勢 高井弘之さん(ノーモア沖縄戦！えひめの会)
奄美大島にとっての辺野古新基地建設とは何か 湯浅一郎さん(土砂全協顧問)「
申込問合せ先：立田卓也 <tateda.dosyazen@gmail.com>

辺野古土砂全協では今後、必ずしも市民の中で共有されていると思われない生物多様性問題、三重で建造される埋め立て用資材「ケーソン」などについて、オンライン学習会を開催する予定です。

** 編集後記 **

私たち土砂全協は、奄美をはじめ西日本各地からの辺野古埋め立て用土砂の採取に反対することでした。採取地とされた地域の市民・住民がつながって創立されたのです。奄美で土砂採取がまたぞろ表面化してきました。防衛省は奄美大島で採取のための「調査」に入りました。島民には何も知らされないままに。

今こそ「土砂全協の働きどころ」です。世界自然遺産の奄美から大量の土砂を採取し、自然を破壊し、辺野古へ搬入、土砂への外来生物混入の防止策は、防衛省にはありません。奄美からの土砂採取を奄美の皆さんとともに断固阻止していきましょう。(松本)

◀ 辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース つながる力28号 ▶ 2024年10月10日

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 阿部悦子(環瀬戸内海会議) hibi_etsuko@yahoo.co.jp
大谷正穂(山口のこえ) masaho1954@gmail.com

編集…松本 宣崇(環瀬戸内海会議) nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

HPアドレス…<http://stophenoko.html.xdomain.jp/>

事務局…〒700-0973 岡山市北区下中野318-114 松本方 TEL・fax 086-243-2927

連絡先…〒794-0026 愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 TEL 090-3783-8332

振込先…郵便振替 番号 01750-8-144158 名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会